# 教 区 報

第112号　2019年12月

## 日本ハリストス正教会教団
## 東日本主教々区

発行：東日本主教々区宗務局
〒980-0021　仙台市青葉区中央３丁目４番20号
電話　022-225-2744　fax　022-224-3080　http://www.orthodox-sendai.com/
振替　02200-2-30428「東日本主教々区宗務局」　orthodox@hyper.ocn.ne.jp

### ハリストス生まる！　崇め讃めよ！

マトフェイ伝のイイススの系図には四人の罪ある婦人が出てきます。主の系図は罪の血の流れの中にありました。罪に苦しみ、労苦と重荷にあえいでいた人たちの真っ直中に救いが始まりました。

人の弱さや醜さ、そして誘惑、妬みや狡さの象徴である夜の洞に生まれ、飼い葉桶に横たわるハリストスの姿に、神がいかに人を愛して降誕されたかの秘儀が隠されています。私たちの迎える降誕祭の「喜び」は何かを手にして喜ぶのではなく、人生の伴侶として常に「神が私たちと共におられ」、主の姿を私たちに明らかにして下さるから喜びなのです。

生神女マリヤの胎で成長されたように「神の愛」は人の魂にやどり、ひとり一人に寄り添って、その人の生き方となって真の「喜び」が生まれます。毎年やってくる降誕祭の喜びは、「愛」の交わりによってさらに深まり、あなたの胸に静かに舞い降りるのです。

# 全国公会の開催

**7/6-7　東京**

7月6日(土)と7日(日)の両日にわたり、ニコライ堂で今年度の全国公会が開催された。

6日午後に始まった公会第一日目は、府主教座下の訓示、宗務総局、各委員会からの報告が行われた。また来年二〇二〇年の日本自治正教会50周年と9月のキリール総主教聖下来日を前に、新たな教団の体制を確立する為に、仙台の大主教セラフィム座下に「東京の副主教」というタイトルが加えられ、ダニイル府主教座下を支えて行くことが発表された。

▲東京の副主教就任の挨拶をされるセラフィム大主教座下

▲セラフィム大主教座下と共に児玉神父と篠永神父

7日午前中の聖体礼儀中に、仙台の児玉神父が長司祭に昇叙、札幌の篠永神父と横浜の水野神父が金十字架の祝福を受けた。午後から行われた公会二日目は財務関係が討議され人事発表があり、札幌には後藤神父が加わり、函館は児玉神父、盛岡は松島神父、仙台に水口神父が赴任することとなった。

その他、網代の修道院閉鎖、福島正教会の仙台への吸収合併が報告され、公会後には宗務総局長の酒井神父が病気治療を理由に休職願が出され受理されたとの報告があった。

セラフィム大主教座下　11/24-25

## ローマ教皇訪日行事への参加

日本正教会は、ローマ教皇来日に際しカトリック中央協議会から招待状を受け、教団を代表して仙台の大主教及び東京の副主教セラフィム座下が、11月24日㈰に広島の「平和のための集い」へ、また11月25日㈪には東京ドームでの教皇ミサに出席された。

## 東京大主教教区　教役者研修会

10/28-29　馬頭ハリストス正教会

標記研修会が10月28日㈪-29日㈫の日程で馬頭にて開催され、東京の副主教セラフィム大主教座下と教区内の9名の教役者が参集した。

聖堂でモレーベンを献じ、研修は「教会を取り巻く現代的な諸問題」について意見交換が行われた。

函館ハリストス正教会管轄司祭

## 長司祭ニコライ・ドミートリエフ神父様のご永眠

▲棺に聖水と聖油を注がれる大主教座下

函館の長司祭ニコライ・ドミートリエフ神父様(59歳)は、6月9日㈰、上磯正教会での聖務中に倒れ懸命の救命活動が行なわれたが、6月13日㈭午後9時52分に冠攣縮性狭心症により函館病院でご永眠された。

埋葬式は函館ハリストス正教会においてセラフィム大主教座下ご司祷、教区神品及びポドヴォリエのニコライ神父陪祷で6月18日㈫に執り行われ、函館正教会墓地に土葬された。

▲函館正教会墓地に埋葬

# 教区会議の開催

**6/22-23　札幌**

二〇一九（令和元）年度の東日本主教々区「教区会議」は札幌正教会を会場に開催された。6月22日(土)午後一時から信徒会館において教区理事会が開かれ、教団、教区の諸活動と財務関係の報告が行われ了承された。

翌23日(日)は衆聖人の主日聖体礼儀が行われ、続けて昨年震災で亡くなられたイオシフ・ダリヤ中川ご夫妻と6月に急逝された函館正教会管轄の長司祭ニコライ・ドミートリエフ神父様の為にリティヤを献じ、永遠の安息を祈った。また長年にわたり札幌正教会執事長として奉仕された功績を讃えてイアコフ星見定義兄が大主教座下より表彰され、感謝状と記念品が手渡された。

教区会議はセラフィム大主教座下のご訓示に始まり、その中では特に宣教会議の在り方に触れられ「会議の在り方を見直し、宣教の本質を論じて具体的な取り組みを実現してもらいたい」と要望された。続けて教団と教区の活動と決算・予算及び次年度計画が討議され、全て了承された。また教団・教区に対して管轄司祭の健康管理を充実徹底することについて提言があった。

▲札幌正教会会館で行われた教区会議

▲感謝状と記念品が贈られたイアコフ星見執事長

10月27日(日)、東北ブロック信徒懇親会が仙台正教会の担当で秋保温泉「ホテルニュー水戸屋」を会場にして開催された。

記念撮影、開会祈祷、開会あいさつ、大主教座下のお言葉に続いてアキラ笹川執事長の乾杯で祝宴が始まった。

新しく盛岡に赴任したピーメン松島神父夫妻の紹介と各教会近況報告が行われ、また仙台教会の多彩な企画でマジック、歌、楽器演奏もあり楽しい宴となった。参加者は43名と少なかったが充実した内容の懇親会に参加者の笑顔がこぼれていた。

## 講演会「ギリシャのこころ」

9/28、29　釧路ハリストス正教会

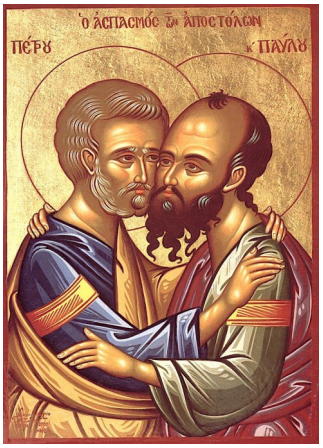
9月28日(土)、29日(日)の両日に東京復活大聖堂のパウェル中西裕一神父を迎えて、釧路正教会聖堂において標記講演会が開催された。

初日は海に投じた十字架を拾いに行く神現祭や花火を打ち合う復活大祭、船舶の成聖や斎の習慣などを、二日目はアトス山の修道院の写真を見ながら祈祷や食事などの生活風景を紹介し、貴重な話をいただいた。

二日間併せての参加者は23名あり、主日祈祷に初めて参祷して感銘を受けた方もあった。これからもこのような試みを工夫しながら継続し宣教に取り組むとのことである。

聖体礼儀において信経が歌われる前、「我等互に相愛すべし、同心にして承け認めんがためなり」という祈祷文を聞くことができます。信経では、皆が同じ信仰告白をする（「承け認める」）ことによって信仰の一致が確かめられます。けれども、もし私たちの中に愛の一致がなければ、信仰の一致もあり得ない、そのようなことをこの祈祷文は教えてくれます。今では、とかく信経の導入部分としか受け取られることのないこの祈祷文ですが、古くは信徒への「平和の接吻」の呼びかけとして機能していました。

「接吻」は古くから愛の表現として使われています。それは旧約の時代にまでさかのぼります。創世記三十三章四節では、長子の権利をめぐって争った双子の兄弟、イアコフ（ヤコブ）とイサフ（エサウ）の和解の場面が描かれていますが、彼らの和解は接吻という形で表わされます。聖体礼儀で信徒の間で交わされていた「平和の接吻」は普通の、一般社会の中で交わされる接吻とは区別され、聖使徒パウェルは「聖なる接吻」（ロマ一六章一六節等）と呼んでいました。イエルサリムの聖キリールは次のように書いています。「互いに抱擁し、平和の接吻を交わそう。この接吻を、公衆で友人達が交わすものと同じであると考えてはいけない。この接吻は互いの魂を結びつけ、あらゆる憤りを消す」。




## 「我等互に相愛すべし」

司祭　エフレム　後藤　悠太

イアコフとイサフの例からも、この聖キリールの文章からも分かりますように、この愛の接吻は何よりも和解の接吻です。そしてそれは、「平和の接吻」が祭品（パンとぶどう酒という献げもの）が献げられるアナフォラ（親しみの献げもの）の前に置かれていることとも関連しています。イイスは次のようにおっしゃっています。「祭壇に供え物をささげようとする場合、兄弟が自分に対して何かうらみをいだいていることを、そこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に残しておき、まず行ってその兄弟と和解し・・・」（マトフェイ五章二三、二四節）

初めは信徒全員で交わされていた「平和の接吻」ですが、時代と共に信徒同士の間でも男性と女性別々に行われるようになり、そして現在の形がそうであるように、神品同士だけへと制限されていきました。ですから司祭一人で奉事している時には、「平和の接吻」そのものが行われないことになります。けれどもそのような時でも必ず、献げられる祭品への接吻は行われます。司祭は「主我の力や、我爾を愛せん、・・・」（一七聖詠）と言って主イイス・ハリストスに接吻します。私たちの間の愛の力の源泉は、主ご自身にあるからです。

私たちの愛の一致があって、信仰の一致、そして領聖による主との交わりの極致へと聖体礼儀は進んでいきます。しかし同時にこの愛による一致は、神の愛の力によるものです。神品が「平和の接吻」をする時、このように宣言されます。

「ハリストスは我等の間に在り！」

# 被災した旧石巻正教会会堂の再建

## ～市民や多くの支援を得て実現～

二〇一一年三月の東日本大震災の津波被害を受け、一時解体保存されていた石巻正教会旧会堂は、震災復興特別交付税や教団、市民をはじめとする全国からの寄付金を充て、総工費一億一千万円をかけて復元された。8月2日からの一般公開を前に、7月30日に現地で記念式典が行われ、セラフィム大主教座下も参加されてテープカットに臨まれた。

一八八〇（明治13）年に建立された旧会堂は正教会の貴重な会堂としてばかりではなく現存する日本最古の木造教会でもある。これからまた多くの人々が訪れるであろう。

## 中新田ハリストス正教会　2019.9.15

# 前駆授洗イオアン聖堂成聖式

9月15日(日)、晴れ渡った秋空の下、中新田ハリストス正教会「前駆授洗イオアン聖堂」の成聖式がセラフィム大主教座下のご司祷のもと東北ブロックの全神品が陪祷して執り行われた。東北各教会及び函館、横浜の信徒及び工事関係者、地元信徒及び住民総勢百五十名を超える参祷者が集まり盛大な成聖式となった。姉妹教会の仙台聖歌隊や堂役には仙台と盛から応援が駆け付け、大切な奉事をお手伝いしてくださった。

宝座、聖堂内外が成聖され、引き続き行われた聖体礼儀では多くの参祷者が領聖に与った。祈祷後、聖堂の竣工に際して功績のあった関係者が大主教座下より表彰され、教会には聖堂成聖のお祝いの品々が贈られた。その後、祝賀会が開催され、お祝いの食事をしながら歓談し、一世一代の大事業を成し遂げた喜びを分かち合った。

この度の成聖式に際し、中新田正教会の歩みをまとめた記念誌も発刊された。参加者並びに全国の教会に贈呈された。

# 東北ブロック聖歌研修会

10/26-27　仙台ハリストス正教会

▲児玉マトシカの指導の下、実技の研修を受ける

▲田畑神父の講義

▲誦経者コース

10月26日(土)、27日(日)にかけて標記研修会が仙台正教会を会場にして行われた。今年のテーマは聖体礼儀の最重要部分である「アナフォラ（捧げる、奉るの意）」。ルカ田畑神父の講義があり、実技はエカテリナ児玉マトシカが担当。また三グループに分かれての練習や、誦経者コースも行われて充実した学びが出来た。

東北の全司祭が集まった主日聖体礼儀を終えた後、昼食をとりながら研修会のテーマや、日程、開催地などについて、来年度に向けての活発な意見交換が行われた。

## 各ブロック宣教会議の開催

**■東北ブロック**　今年度最初のブロック宣教会議が9月19日(木)に一関正教会で開かれた。今回は夏の教会学校修養会の報告と反省、聖歌研修会と信徒懇親会、宣教キャラバンの内容が討議された。教会マップの更新や、リーフレットや冊子などについても話し合われた。

**■北海道ブロック**　11月9日(土)、10日(日)の両日、苫小牧正教会を会場にして北海道ブロック教会学校教師会と宣教会議が開催された。教師会は札幌正教会から、宣教会議では各教会から活動と実情が報告された。また会議での討議は多岐にわたり、キャンプや研修会の改善についてや宣教全般の取り組みや教団への要望等も話し合われた。

**■北海道ブロック　キャンプだホイ！**

7月30日㈫から8月1日㈭までの2泊3日の日程で、道内より32名（中学生以下5名）が参加した。カヌー体験グループは厚岸湖にて練習後、別寒辺牛川で川下りをして自然を満喫した。バスツアーグループは厚岸の歴史文化財を見学した。霧多布温泉入浴と昼食、夜はバーベキュー、ピアノミニコンサート、クリスチャンカフェでの交流などが行われた。最終日は焼き板クラフトの制作をして思い出の品を作った。来年は「キャンプだホイ！ 2020 in 深川」。年々子供たちの参加が減少しているが、また来年も広く呼び掛けて行く。

**■東北ブロック　夏季修養会**

7月31日㈬、8月1日㈭の二日間にわたり、石巻管轄が当番となっておしか旅行村と網地島を会場にして修養会が開催された。

今年の目玉は網地島での海水浴。東北大震災で甚大の津波被害を受けた鮎川、網地島近辺はまだ復興工事が行われているが、浜は美しく戻り子供たちは大いに遊んだ。宿泊先のおしか旅行村ではマジック披露やスイカ割り、花火で楽しんだ。翌朝ラジオ体操、朝食後はサン・ファン館へ。兜づくりや大人も混じって工作をして二日間の日程を終え解散。少子高齢化で参加者減だが継続は力なり、元気な大人も集めながら、頑張って修養会を続けたい。

# 各地のバザー

## 函館正教会

10月14日（月・祝）、午前10時よりバザーを開始。心配していた台風は通り過ぎ、朝から青空。例年よりも品揃えも豊富で、野菜も目を引いた。聖堂案内では神父による解説が行われ、訪れた人々は熱心に耳を傾けていた。

## 一関正教会

10月14日（月・祝）、一関正教会の第28回バザー開催。十文字教会、盛教会、日形教会からも出店。その他に気仙沼、金成、奥玉の各教会からも来場し、飲食を楽しみ、交流を深めた。

## 仙台正教会

10月12日㈯、台風が差し迫る中、仙台教会のバザーが行われた。開始直前に中止も覚悟したが、何とか雨だけで治まり、「雨ニモマケズ」、奉仕者の協力で無事開催された。



# 各教会ニュース

## 盛岡管轄

### 夏休み子供会・納涼会

盛岡正教会において8月11日㈰の祈祷後にバーベキューや流しそうめんを楽しんだ。参加した子供は1名だったが、工作の時間もあって充実したひと時だった。

### 北鹿正教会の屋根の十字架修復

5月に突風によって破損した屋根の十字架とクーポルが修復された。県の文化財であるため細心の注意をはらった工事となった。

### 北鹿正教会「文化講演会」

11月4日（月・祝）、恒例の「文化講演会」が行われ、ピーメン松島神父が「正教会の世界観」について講話を行った。

## 釧路管轄

### 帯広集会

10月20日㈰、帯広近郊の音更町ひびきの会館にて帯広集会が開催され、19名が参祷して主日聖体礼儀が行われた。昼食後は東京のパウェル中西神父のご子息ニコライ裕人兄の写真集「記憶の祈り」の一文を味読しながら、「記憶」のことを学んだ。

## 札幌管轄

### 札幌正教会婦人会見学会

7月10日㈬に22名の参加者で、道立美術館を見学。東山魁夷の作品などを鑑賞した。

### 小樽教会婦人部見学会

10月15日㈫にニトリ 美術館と旧三井銀行小樽支店、ステンドグラス美術館などを見学。

## 石巻管轄

### 管轄区合同総パニヒダ

毎年お盆の時期に合わせて管轄区全体の全死者を記憶する合同総パニヒダを行っている。今年は8月12日㈪に行われ、祈祷後は納涼会として恒例のバーベキューを行い、懇親を深めた。

### ロシアラグビー連盟訪問

ラグビーワールドカップ出場のために来日したロシアラグビー連盟の方々が9月22日に石巻正教会を訪問し、イコンを献納してくださった。

## 函館管轄

### 上磯正教会の聖堂修復とパニヒダ

かねてから計画されていた上磯正教会の聖堂の改修工事が行われ、9月23日㈪、見違えるほど美しくなった聖堂で成聖式と秋のパニヒダが行われた。

## 仙台管轄

### 中新田正教会収穫祭

11月24日㈰、恒例となった収穫祭を開催。感謝祈祷を行い、初物の稲を成聖し、大いに祝った。

## ー　宣教献金の御礼とお願い　ー

＋主の御名によりてご平安をお祈りいたします
皆様方のご理解とご協力を賜り、昨年度は379件2,065,000円の宣教献金が寄せられました。目標を超える御献金を賜り厚く御礼申し上げます。
　今年も年末が近づき来年に向けて教区の宣教献金募集の時期になりました。下記の要領で募集いたしますので、ご協力をお願い申し上げます。

記

■２０１９年度宣教献金目標額　　２００万円
■献金額　　1口　　３，０００円（1口以上を目安にお願いいたします）
■献金方法　　同封の郵便振替用紙に住所、所属教会名、聖名、氏名を記入しこれまで通り、最寄りの郵便局（ゆうちょ銀行）にてお手続き下さい。
■期　　間　　２０１９年１２月１０日　～　２０２０年５月３１日

# 人物消息

―敬称略―

（２０１９年５月～２０１９年１１月）

◆洗礼［教会名・聖名・氏名・受洗日］

上武佐　ダヴィド　長屋理人　６月９日
釧路　パウラ　立花綾子　７月20日
マルファ　立花優奈　７月20日
マルコ　立花啓人　７月20日
札幌　イオアン佐々木登久朗　10月12日
アレクセイ後藤孝夫　10月18日
函館　アレクサンドラ・イリイナ　５月３日
ソフィヤ　村岸貞子　11月12日
盛岡　イリネイ戸田和久（帰正）　８月25日
イオアンナ佐々木香織　９月８日
一関　ルカ　小野寺千眞　５月10日
ゲオルギイ葛西清重　９月16日
エリザベタ葛西麻紀子　９月16日
イリヤ　葛西晴信　９月16日
アナスタシヤ葛西麻美　９月16日
金成　イヤコフ　秋山　博　６月16日
マリヤ　秋山和子　６月16日

※洗礼おめでとうございます。

◆永眠［教会名・聖名・氏名・永眠日］

釧路　イウスティナ武内静子　６月26日
ペトル　立花一郎　８月７日
札幌　アンナ　佐藤トキエ　６月６日
マリヤ　長岡フミ　７月20日
エフゲーニヤ本家律子　８月11日
ミヘイ　徳永好明　７月７日
長司祭ニコライ・ドミートリエフ　６月13日
苫小牧　ウラジミル鈴木　旭　11月12日
函館　フィリップ大村義満　11月５日
上磯　マキシム　小泉　至　８月17日
盛岡　リュボフ　畠山良子　８月２日
北鹿　ペートル　山田睦夫　10月21日
一関　イグナティ千葉大二　９月９日
盛　アンナ　佐藤栄子　７月24日
十文字　フェオドシヤ小野寺仁子　６月30日
日形　キリイル　渡邊吉雄　５月13日
仙台　フォマ　澤邊好弘　６月３日
マルファ　高橋照子　７月３日
マリヤ　佐藤輝子　７月28日
セルギイ　木村七郎　10月20日
中新田　マリヤ　岡本君子　８月７日
エウドキヤ北浦エワ　11月９日
白河　アンナ　平澤幸子　５月４日
ユリヤ　渋木ハルノ　12月１日

※永遠の記憶をお祈りいたします。